




令和5年度 北海道青少年のための200冊 新選図書目録 (45冊)



公益財団法人 北海道青少年育成協会
 〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目 第二道通ビル6階
 TEL.(011)231-6451 FAX.(011)231-6457
 ホームページ: <http://www.ikuseikyoo.jp/>
 Eメール: youth@ikuseikyoo.jp




「道民家庭の日」
 イメージキャラクター
 はーほーくん

幼児の部

わらってよ ピッコ ルイス・スロポドキン(作・絵) 	[福音館書店] 1,430円	くうちゃんいってらっしゃい まえがわ かねで(作・絵) 	[白順社] 1,100円
公園で子どもをカートに乗せて散歩しているボニーの「ピッコ」は、いつもどこか悲しそう。アルフレッドとジーナの兄妹がピッコを元気づけようと奮闘する様が健気かつユーモラスに描かれています。ピッコを思いやる兄妹の姿に心が温かくなる絵本。		朝の身支度をするくうちゃん。挨拶をして、トイレに行くと、兄弟のぼうちゃんが靴下を履けば、くうちゃんは義足にお着替えをする。「義足を小さい時から自然に身近にあるものになりたい。」という願いから生まれた、義足ユーザーの日常を描いた絵本。	
びんにいれてごらん デボラ・マルセロ(作) 	[光村教育図書] 1,650円	ママって すごーい! クリス・ホートン(作) <h2>小学校1年生の部</h2>	

イライラのあらし ルイズ・グレッグ(作) 	[金の星社] 1,540円	よるのあいだに…みんなをささえるはたらく人たち ボリー・フェイバー(文) 	[BL出版社] 1,760円
小さな風だったエドのイライラは、どんどん大きくなり、やがて嵐となって、街中を巻きこんでいきます。やりすぎ?と思っても、イライラはエドの背中を押し続け…。膨らんでいくイライラと向き合い、怒りの感情を知り、上手に付き合う方法を見つける絵本。		私がパジャマに着替える頃、ママは仕事に出かけます。私が寝ている間も、街には明かりがいっぱいついており、たくさんの人たちが働いています。夜の間の仕事を一つ一つ子どもの目線で優しく追いかけて、暮らしを支える仕事に気付かせてくれる絵本。	
いい一日って なあに? ミーシャ・アーチャー(作) 	[BL出版] 1,650円	トンちゃんって そういうネコ MAYA MAXX(作・絵) 	[汐文社] 2,200円
街を歩くダニエルにみんなが「いい一日を!」と声をかけてくれます。「いい一日って なんだろ?」ダニエルはいろいろな人に尋ねて回ります。今日がみんなにとっていい一日だったことを喜ぶ姿がほほえましく、日々の中にある幸せに気付かせてくれる絵本。		トンちゃんは元気なネコ。トンちゃんには足がひとつないけれど、毎日楽しく暮らしています。無いことやできないことにくよくよするより、あることやできることを喜び、楽しむことの大切さが伝わってくる絵本。子どもたちが読みやすいように再編集し再刊行。	

小学校2年生の部

がっこうに まにあわない ザ・キャビンカンパニー(作・絵) 	[あかね書房] 1,650円	うみべの おはなし3にんぐみ ジェイムズ・マーシャル(作) 	[大日本図書] 1,540円
7時47分、大急ぎで学校に向かう男の子。今日は8時まで絶対に着かないといけなのに、行く手には次々と邪魔するものばかりで、焦れば焦るほど、景色が、時空が、歪んでいきます。ダイナミックな構図で描かれた疾走感と緊迫感に圧倒される絵本。		砂浜でピクニックをしていたサムとスパイダー、ローリーの3人組は、自分が作ったお話をすることになり、一人ずつ話していきますが…。想像力豊かな3人のお話が楽しく、自分でも作ってみたいくなる、お話の魅力がたっぷりつまった幼年童話。	
いのちが かえっていくところ 最上 一平(作) 伊藤 秀男(絵) 	[童心社] 1,430円	2ひきのカエル そのぼうき、どうすんだ? クリス・ウォーメル(作・絵) 	[徳間書店] 1,980円
父に連れられ、初めて渓流釣りに来た少年たもんは、思いがけなく大きなイワナを釣り上げ、魚が食い付いた時の高揚と緊迫、重さを全身で実感します。その命を美味しく頂いたことで、全身で命を感じた少年たもんの心情を、繊細かつ力強く描いた絵本。		大きな池の睡蓮の葉の上で休んでいる2匹のカエル。「備えあれば憂いなし」とばかりに棒切れを抱える1匹に、「なんでまた、そんな棒切れ抱えてるのさ?」と突っ込むところから始まる。2匹のウィットに富んだ掛け合いと、まさかの展開のオチが魅力の絵本。	



北海道「朝読・家読運動」 イメージキャラクター「ぶっくん」

学校での朝の読書や家庭での読書を通じた子どもたちの読書習慣の定着を図るため、北海道「朝読・家読運動」のイメージキャラクターとして誕生しました。
 本から心の栄養をたっぷり吸収し、めがねがハート型になっています。



小学校3年生の部

貝のふしぎ発見記 武田 晋一(写真・文) 	[少年写真新聞社] 1,980円	バスが来ましたよ 由美村 嬉々(文) 松本 春野(絵) 	[アリス館] 1,540円
貝がらを持つ生き物だけが「貝」ではなく、タコやイカ、クリオネ、カタツムリも、「貝」の仲間。美しいもの、地味なもの、その正体は軟体動物。ふにやふにやした体の軟体動物には、不思議がいっぱい。美しいカラー写真で分かる知識の本。		難病で失明してしまった男性は、ある小学生のサポートで、バスに乗り通勤を続けることができた。その小さな親切は、その小学生が卒業しても地元小学生に受け継がれ、男性が定年退職するまで続いた。実話に基づく心温まる話。	
ONE WORLD たったひとつの地球 今の時間、世界では… ニコラ・デイビス(作) ジェニ・デズモンド(絵) 	[フレーベル館] 1,793円		
		地球では、それぞれの場所で生き物が暮らしている。午前0時のイギリスから始まって、氷が溶けてきている北極のホッキョクグマ、山火事で水飲み場がへっているオーストラリアのカンガルーなど、同じ時間に何が起きているのか、地球の環境について考える本。	

小学校5年生の部

父さんのゾウ ビーター・カーナバス(作) 	[文研出版] 1,540円	わたしは反対! デビー・リヴィイ(作) 	[子どもの未来社] 1,980円
オリーブが台所へ入っていくと、パパの後ろにゾウがいた。でも、そのゾウはオリーブにしか見えていないようだ。はたしてそのゾウの正体は?母を失い、悲しみに暮れる家族の再成の物語。		1930年～1970年代のアメリカでは、男性と女性の役割が社会的に決まっていた。そのことに納得できなかったルースは、小さな頃から「わたしは反対!」と声を挙げた。その声やがて社会を変えてゆく。	


小学校6年生の部

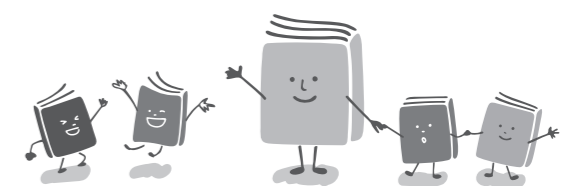
ちいさな宇宙の扉のまえて 続・糸子の体重計 いう みる(作) 	[童心社] 1,650円	ガリバーのむすこ マイケル・モーバーゴ(作) 	[小学館] 1,650円
小学6年生になった糸子とその同級生との物語。学校、習い事、友達、自分、親など、それぞれの立場や環境の中で悩みながら生活している子ども達。糸子を中心に、それぞれが前向きに歩き出してゆく。やがて訪れる、春、卒業に向かって。		海に投げ出された難民の子どもオマール。目を覚ますと、昔ガリバーが流れ着いた小人の島だった。ガリバーのむすこと呼ばれ、次第に小人の世界になじんでゆく。離れ離れになったお母さんに会いたい気持ちと、島で暮らしたい気持ちの中でゆれ動く少年の物語。	

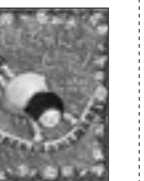

小学校4年生の部

はじめましてのダンネバード 工藤 純子(作) マコ カワイ(絵) 	[くもん出版] 1,540円	ブラックホールってなんだろう? 嶺重 慎(作) 倉部 今日子(絵) 	[福音館書店] 1,430円
「ダンネバード」はネパール語でありがとう。蒼太のクラスに転校生がやってきた。ネパールからやってきたエリサだ。日本語の分からないエリサは次第にクラスの中で一人ぼっちに。相手の立場になって考えることの大切さを教えてくれる物語。		ブラックホールを知っていますか?かつては「こわいもの」や「わるいもの」と思われていたのですが、今では少しずつ見方が変わってきています。ブラックホールはものをすいこむだけではないのです。ブラックホールについての易しい入門絵本。	
サバンナで野生動物を守る 沢田 俊子(作) 	[講談社] 1,540円		
		南アフリカ共和国政府公認のサファリガイドとして働く太田ゆかさん。サファリツアーのガイドだけではなく、絶滅が心配されている動物たちの保護にも積極的に取り組んでいる。野生動物の実態や太田さんの熱意が伝わってくる本。	

小学校5年生の部

たぶんみんなは知らないこと 福田 隆浩(作) 	[講談社] 1,540円
重度の知的障がいがある小学5年生のすず。話ができないけれど、みんなと同じで色々なことを考えたり、思ったりしています。すずを見守る家族、学校の同級生、先生たちとの日常がすずの目線で語られる。	



ももちゃんのピアノ 沖縄戦・ひめゆり学徒の物語 柴田 昌平(文) 	[ポプラ社] 1,650円	新月の子どもたち 斉藤 倫(著) 花松 あゆみ(絵) 	[プロン新社] 1,870円
本物のピアノがひけると聞いてひめゆり学園に入学したももちゃん。しかし、時代は戦争へと突き進み、ピアノや音楽はおろか、日々の生活も満足にできなくなる。それでも、「生きること」を諦めなかったももちゃんの物語。		ある日、小学5年生の令はトロイガルトという国の死刑囚レインとなった夢を見る。そこでは、クマの刑務官に見守られ、死ぬことを受け入れている子ども達がたくさんいた。現実世界の令と夢の世界のレイン。2人の少年が大人という未来へ向かって動き出してゆく。	

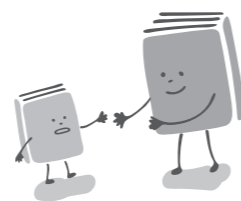
令和5年度 北海道青少年のための200冊 新選図書目録 (45冊)



公益財団法人 北海道青少年育成協会
 〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目 第二道通ビル6階
 TEL.(011)231-6451 FAX.(011)231-6457
 ホームページ: <http://www.ikuseikyjo.jp/>
 Eメール: youth@ikuseikyjo.jp

中学生の部Ⅰ

考えたことなかった 魚住 直子(作) 西村 ツチカ(絵) [偕成社] 1,540円	マスク越しのおはよう 山本 悦子(著) [講談社] 1,760円
ある日、颯太は未来の自分だというネコに声をかけられた。このままだと「みじめなさいご」になるという。おばあちゃんがなんでもやってくれる祖父母の家と、家事をお兄ちゃんもやれ、と妹に言われる自分の家。他にも、もやもやする日々を送る男子の物語。	新型コロナウイルスが感染拡大し、全国の学校が休校になった。その後の分散登校、マスクをしての全員登校の初期の頃にあったであろう様々な事情や思い、そして日常。どこにでもあった日々を、中学二年生のあるクラスの5人を主人公に描いた作品。
この空のずっとずっと向こう 鳴海 風(作) おとない ちあき(絵) [ポプラ社] 1,650円	僕らが学校に行く理由 渋谷 敦志(著) [ポプラ社] 2,420円
黒船がやってきた8年後、江戸の町医者の娘そらは、英語の勉強をしている大六という名の侍の子と出会う。町人の生活を大六に教える一方、そらは世界に興味をもち英語を学んでいく。幕末から明治への激動の時代を生きた人々と少女の物語。	世界には、紛争や貧困などの理由から学校に通うことすらままならない子どもが数え切れないほど存在している。写真家・渋谷敦志が出会った、生きるために大変な状況の中でも学びたいと願う子どもたちの姿を通して、学ぶことの意味を問いつけている本。
かわいい子ランキング ブリジット・ヤング(著) [ほるぷ出版] 1,760円	授業中の生徒たちにいっせいにメールで送られてきた、八年生のかわいい女の子のランキング。1位の地味なイヴは注目されて困惑し、努力してみんなのあこがれの存在になっていたソフィーは2位だったことに屈辱を感じる。「犯人」はいったい誰なのか。



高校生・青年の部

マスクと黒板 濱野 京子(作) [講談社] 1,540円	水辺のワNDER ～世界を旅して未来を考えた～ 橋本 淳司(著) [文研出版] 1,650円
6月、コロナの休校明けの生徒たちの前には、新一年生向けの「コロナに負けるな!」のメッセージと見事な黒板アートがあり、美術部二年の輝も興味を持つ。みんなマスクをつけ、ソーシャルディスタンスに気をつける毎日。この後の学校生活はどうなるのか。	世界各地の水辺を旅しながら水と人の暮らしについて考える「水ジャーナリスト」である著者は、その取材の中で、気候変動が人々の生活に影響を及ぼしていることを知る。日本も例外ではなく、自分の暮らしを見直し、行動することを考えさせてくれる。
魔女だったかもしれないわたし エル・マクニコル(著) [PHP研究所] 1,540円	ぼくたちのスープ運動 ー小さな思いやりが世界を変える!ー ベン・デイヴィス(作) [理論社] 1,760円
スコットランドの小さな村で、二人の姉と両親と共に暮らす自閉の少女・アディ。先生や友だちとうまくいかなかったり、家族と距離があったりする毎日。そんな時、この村に「人どちがう」というだけで魔女の烙印を押され命を奪われた人々がいることを知る。	都会からボンステッドに越してきたジョーダンには、病気で入院していた経験がある。新しい学校、新しい生活になじもうと努力しているが、なかなかうまくいかない。だが、ママのスープをホームレスの男性にあげたことから、状況が変わっていくことになる。

中学生の部Ⅱ

スクラッチ 歌代 朝(著) [あかね書房] 1,650円	チャンス はてしない戦争をのがれて ユリ・シュルヴィッツ(著) [小学館] 1,760円
コロナ禍で「総体」が中止になったバレー部キャプテンの鈴音。美術部部長の千咲は出展する予定の「市郡展」も審査が中止になってしまった。目標を失いながらも自分を見つめ前に進んでいこうとする中学三年生たちの姿を、力強く描いた物語。	ぼくが住んでいたポーランドのワルシャワがドイツ軍の爆撃にあったのは4歳のときだった。ユダヤ人の一家がどのような経験を各地を転々としていったのか。絵の好きな少年だった幼い頃の記憶と父の残した記録をもとに、文章とイラストで描いた作品。

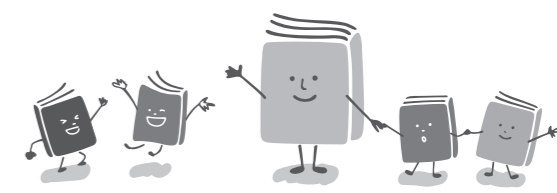
中学生の部Ⅲ

北海道日本ハムファイターズでは、2014年から行っている読書促進全道キャンペーン「グラブを本に持ちかえて」の一環で、株式会社パイロットコーポレーションご協賛のもと、「本を読んでファイターズを応援しよう!」キャンペーンを実施します。小学生を対象に夏休み期間前後で、目標冊数(1・2年生=10冊、3・4年生=8冊、5・6年生=6冊)を読み終えた児童にPILOT製文具がプレゼントされるほか、希望者には、エスコンフィールド HOKKAIDOでの公式戦に150組600名が招待されます。本を選ぶ際には、「北海道青少年のための200冊」を参考にしてください。〔申込期限=7月31日まで 詳しくは球団サイトをご覧ください。〕



選定=公益財団法人北海道青少年育成協会 選定協力=北海道学校図書館協会・北海道読書推進運動協議会

あの図書館の彼女たち ジャネット・ステスリン・チャールズ(作) [東京創元社] 2,420円	不登校後を生きる 樋口 くみ子(著) [学びリンク] 1,540円
第2次世界大戦、ナチス占領下のパリ。ナチスにより様々な文化活動が厳しく制限されるが、パリにあるアメリカ図書館は、知恵と勇気をもって図書館活動を続けていた。本を愛し、図書館を愛し、「自由な世界の窓口」を守り続けた図書館員と利用者たちの物語。	中学、高校と二度の不登校後、高校を中退し中卒のアルバイト、フリーターとして社会へ。そこでは迷い、失敗、方向転換の連続であった。その後大学、大学院を卒業し現在は岩手大学の准教授となった著者が語る、「不登校後」を迷わず生きるための情報とエール。
寝ても覚めてもアザラシ救助隊 岡崎 雅子(著) [実業之日本社] 1,650円	両手にトカレフ プレイディ みかこ(著) [ポプラ社] 1,650円
小学3年の時に出会ったアザラシのぬいぐるみ。そこからアザラシ愛が始まる。水族館で働くため獣医師となるも現実は厳しく、紆余曲折の後、日本で唯一のアザラシ保護施設「オホーツクとっかりセンター」の飼育員となる。アザラシの魅力と保護活動を熱く語る。	薬物とアルコールに溺れる母。14歳のミアは母に代わり家事と弟の世話をする。毎日の食事にも事欠き、すべてにおいてギリギリで生きている。ある日、町の図書館で「カネコフミコ」の自伝と出会う。そこには自分と同じ「子どもという牢獄」に生きる少女がいた。
大地の五億年 藤井 一至(作) [山と溪谷社] 1,210円	あなたの教室 レティシア・コロンパニ(著) [早川書房] 1,760円
「土」とは何か。「砂や粘土に腐った動植物遺体が混ったもの」で、生き物がいない月や火星に土は無い。土壌学の専門家が地球の特産物である土について、縦横無尽に語る土と生き物たちと地球の歴史。人がつくることの出来ない土の壮大なドキュメンタリー。	傷ついた自分を癒やすため、教師を辞めインドへやって来たフランス人のレナ。彼女がそこで目にしたものは、社会の最底辺で生きる女性と少女たちの驚くべき実態であった。知識と思考が生きる力となることを伝えたい。彼女は少女たちの学校作りに奔走する。
金環日蝕 阿部 暁子(作) [東京創元社] 1,980円	ボーダー 移民と難民 佐々 涼子(作) [集英社インターナショナル] 1,980円
ひたひた事件を目撃した大学生の春風は、偶然出会った高校生の鎌と犯人を捜すことになる。そこで親の犯罪、離婚、借金等で厳しい環境に身を置く若者たちを知ることになる。彼らが特殊詐欺事件に組み込まれていく姿を、札幌を舞台にリアルにスリリングに描く。	※掲載されている書籍の価格は税込価格です
三流シェフ 三國 清三(作) [幻冬舎] 1,650円	増毛町の貧しい漁師の子として育った少年は、中卒で札幌の米穀店に住み込みで就職する。そこで初めて食べたハンバーグが人生をかけた目標「コックになる」を与えてくれた。彼は後年、世界的なフレンチのシェフとなった。夢のため走り続けた圧倒的熱量の自伝。



「北海道青少年のための200冊」選定の柱

- 1 何ものにもくじけない、強じんな開拓精神を育てるために。
- 2 人間の幸せに貢献する科学に尽くそうとする心を育てるために。
- 3 平和を愛し、幸福な社会をつくらうとする心を育てるために。
- 4 人間の尊さを守らうとする心を育てるために。
- 5 想像力を広げ、豊かな情操を育てるために。

【200冊の選定方法】
 北海道学校図書館協会選定部の先生方が、毎月2回実施している選定会の中で読んだ多数の作品から厳選しています。

【活用例】
 ①学校では、朝読書や夏・冬休みのおすすめ本として児童生徒に目録を配布、読書感想文の選定図書としているほか、図書購入時の参考資料にも活用
 ②公立図書館では、「200冊コーナー」を設け図書を紹介
 ③北海道日本ハムファイターズと連携して、読書推進キャンペーンの参考図書として活用